

粗大な空間を持つポーラスコンクリートの魚礁への適用

当部では、内部の空間に植物や生物が棲息可能なポーラスコンクリートの研究を行い、三重県内の企業による製品化も進めてきました。このポーラスコンクリートの内部空間をさらに大きくすることで、多様な生物の生息空間を提供できると考え、粗大（30～40cm程度）なコンクリートがらを骨材とする大粒径ポーラスコンクリートの開発を行い、磯焼け等により海生生物の棲息が乏しい海底に魚礁として設置し、現在、その経過を観察しています。



設置海域の海底の様子(砂れきが多い)



台船から海底に投入されるブロック



海底での設置風景

魚礁としての効果を確認するため、70m²の区域に設置した。



設置5ヶ月後のブロック

ブロック表面には種々の生物相の被覆が確認され、貝類、伊勢エビなどが棲息し、魚類も住みかとして利用している。